

提出書類ファイル仕様書
(その2 : IFRS 適用提出者用)

2010年（平成22年）4月12日

金融庁 総務企画局 企業開示課

目 次

1	使用するフォルダについて.....	3
2	表示情報ファイル.....	4
3	HTML 作成上の留意点.....	5

本書について

本書では、IFRS タクソノミを使用した提出書類作成時の XBRL データ（報告書インスタンス、企業別タクソノミ）作成以外のファイル作成仕様について、EDINET タクソノミを使用した書類提出時との相違点について説明しています。

本書に記載以外のファイル作成仕様は EDINET タクソノミを使用した際と同様となりますので「提出書類ファイル仕様書」をご参照ください。

1 使用するフォルダについて

IFRS による書類を提出する場合は、以下のようなフォルダを作成します。

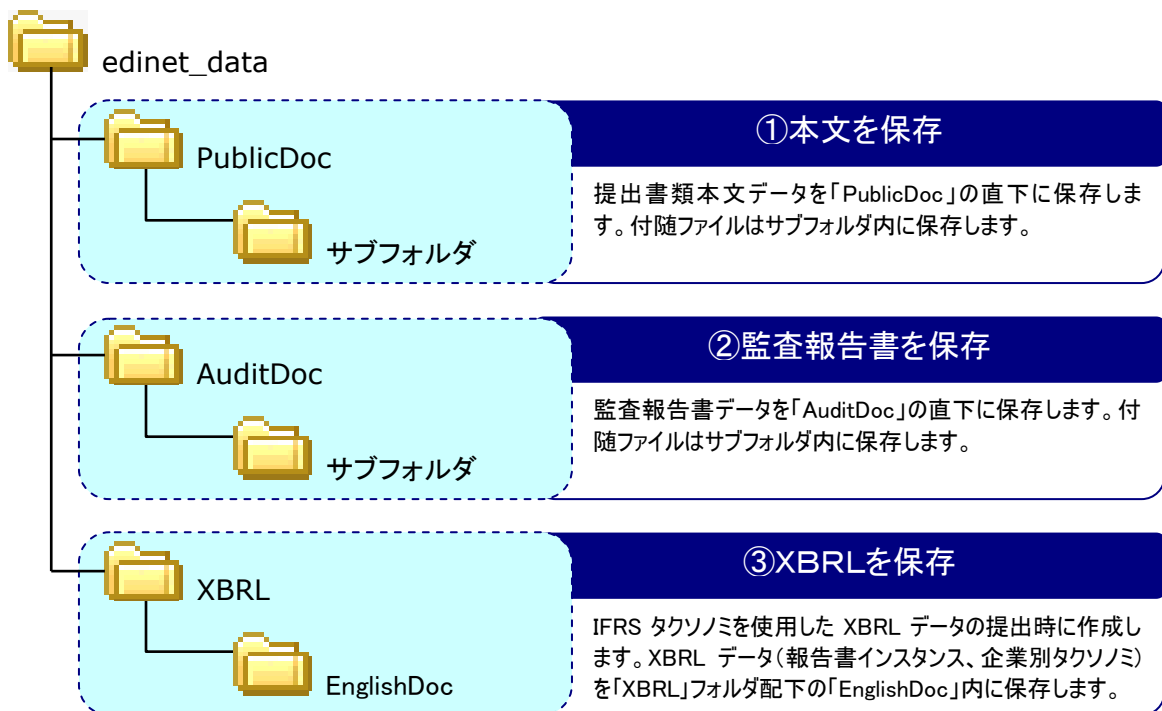
次図は「edinet_data」というルートフォルダの配下に、各提出用フォルダを作成した場合の例です。

IFRS タクソノミを使用した XBRL データを提出する際は、「XBRL」フォルダ配下の「EnglishDoc」へ格納します。このとき、EDINET タクソノミを用いた XBRL データを同時提出する場合であっても、同様に「XBRL」フォルダ配下の「EnglishDoc」へ格納します。

本文データは日本語となりますので通常通り「PublicDoc」の中へ格納します。

EDINET タクソノミを用いた提出と同様に、「AuditDoc」の作成と必要に応じて、「AttachDoc」、「PrivateDoc」、「PrivateAttach」の各フォルダを作成可能です。詳しくは、「提出書類ファイル仕様書」をご参照ください。

● IFRS適用による書類を提出する場合のフォルダの構成



2 表示情報ファイル

2-1 IFRS タクソノミを使用した XBRL のみ提出する場合

IFRS タクソノミを使用して作成した XBRL データに対しては、XBRL データから HTML への変換が行われないため、表示情報ファイルの提出は必要ありません。

2-2 IFRS タクソノミを使用した XBRL と EDINET タクソノミを使用した XBRL を同時提出する場合

IFRS タクソノミを使用した XBRL データと EDINET タクソノミを使用した XBRL データを同時に提出する場合、「XBRL」フォルダ配下の「EnglishDoc」を使用して EDINET に提出します。この場合、いずれの XBRL データも HTML への変換は行われなことに留意して下さい。

IFRS タクソノミを使用した XBRL データについては、表示情報ファイルの提出は必要ありませんが、EDINET タクソノミを使用した XBRL データについては、表示情報ファイルを提出するものとします。

表示情報ファイルの作成については「提出書類ファイル仕様書」をご参照ください。

3 HTML 作成上の留意点

IFRS タクソノミを使用した XBRL データを提出する場合、XBRL データから HTML への変換が行われなため、提出者は当該財務諸表部分について HTML も併せて作成し、提出する必要があります。

また、IFRS タクソノミを使用した XBRL データと EDINET タクソノミを使用した XBRL データを同時に提出する場合には、EDINET タクソノミを使用した XBRL データについても XBRL データから HTML への変換が行われなため、提出者は当該財務諸表部分についても HTML を併せて作成し、提出する必要があります。

なお、XBRL データと HTML データに含まれる内容は一致している必要があります。両者に齟齬が生じないよう、十分確認した上で提出するようご留意下さい。